



高等学校生徒の学習モチベーション向上のための ディベート学習プログラムの実践

○青柳 西藏^{*1} 石井 裕剛^{*1} 下田 宏^{*1} 北川 欽也^{*2*3} 河原 恵^{*2}

*1: 京都大学大学院 エネルギー科学研究科

*2: 滋賀県立膳所高等学校

*3: 現在、滋賀県立守山高等学校

はじめに



- ▶ 高等学校における学校教育の場
- ▶ モチベーションをもって主体的に取り組んでほしい学習活動
 - ▶ 部活動、進路学習....

学習活動自体の意義を理解を促進したい



- ▶ 学習活動の意義について深く考える機会が有効と考えられる
- ▶ 本研究の目的
 - ▶ 高等学校生徒の学習活動の意義の理解を促し
学習活動へのモチベーションを向上するための
ディベート学習を用いた学習プログラムの構築、実践

提案する学習プログラムの要件

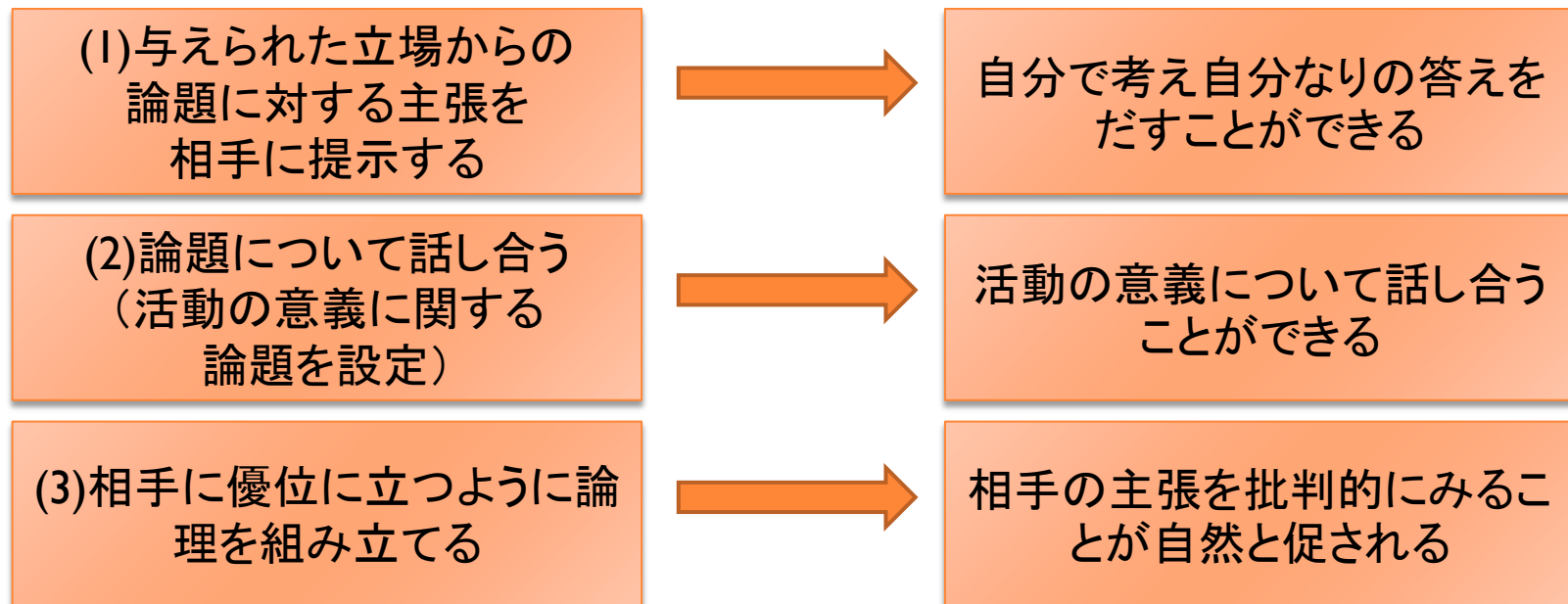


1. **参加者一人一人が学習活動の意義について自分なりの答えをだせる**
 - ▶ 気付いた意義にコミットしてほしい
 - ▶ そのためには自律性が重要
2. **参加者が他参加者と話し合いながら学習活動の意義を考えられる**
 - ▶ 学習活動の意義について深く考えてもらうため
 - ▶ 一つの答えにすぐ飛びつくのを防ぐ
 - ▶ 教師側の考える意義に気付いてほしい
3. **他者の考えを参考にする場合、自分で批判的に吟味した上で取り入れられる**
 - ▶ そのまま鵜呑みにしたのでは深く考えたことにならない

ディベート学習の導入

▶ ディベート

- ▶ 一つの論題に対し、2チームの話し手が肯定する立場と否定する立場に分かれ、自分たちの議論の優位性を聞き手に理解してもらうことを意図したうえで、客観的な証拠資料に基づいて議論をするコミュニケーション形態(松本 1996)



学習モチベーション向上のための論題設定

- ▶ 直接その学習活動の意義を主張する論題は不適
 - ▶ 議論の余地、自律性の確保のため
 - ▶ ディベートでは、答えの決まっている事柄を論題にしない
- ▶ 政策論題(～では～すべきである)
 - ▶ 様々な評価の観点を見出しながらその政策のメリット・デメリットを挙げていく話し合いになる
- ▶ 生徒にとって身近なものがよい



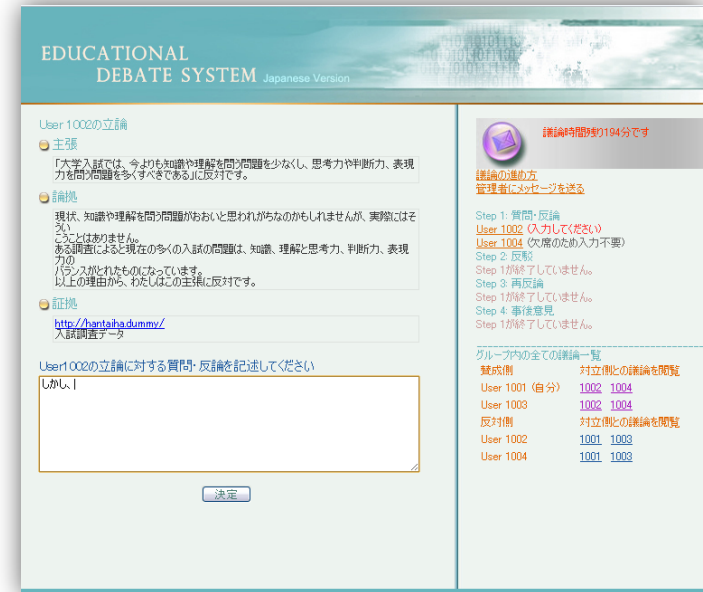
- ▶ ディベート学習の論題
 1. 参加者である生徒の日常の学校生活と直接関係し
 2. 対象の学習活動の意義がその決定理由の1つである
 3. 「具体的なルールや決まりごと」の変更を主張する政策論題
- を設定

ディベート支援システムの使用

- ▶ ディベート学習実施上の問題
 - ▶ 1つのディベートに参加できるのは最大でも8名程度
 - ▶ 40名のクラス全員が参加するには同時に複数のディベート
 - ▶ ディベートごとに監督者が必要
 - ▶ 教師の数は限られている



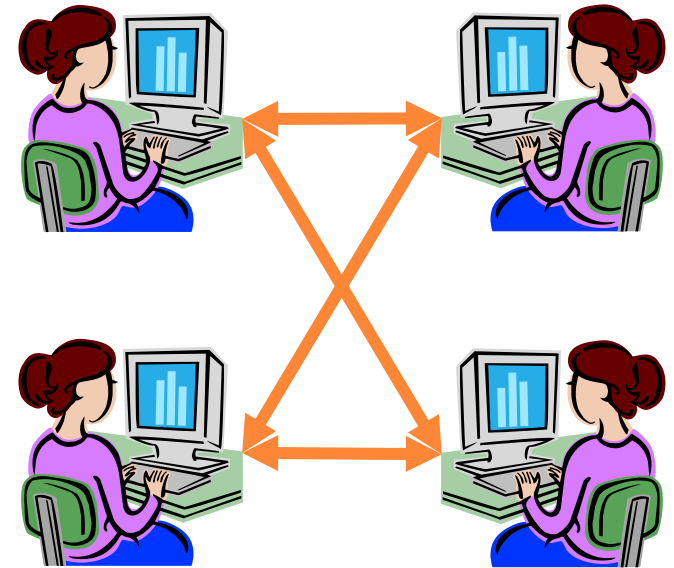
- ▶ ディベート支援システム
 - ▶ インターネットを介した同期CMC(Computer Mediated Communication)によるディベート
 - ▶ 話し合いの進行をシステムが自動的に行う
 - ▶ 同時に何グループでもディベートが可能



ディベート支援システムを用いた ディベートの概要



- ▶ 1名につき1台のPCを使用
- ▶ 4名程度のグループで1つの論題をめぐって1対1の議論を行う
- ▶ 匿名の議論



学習プログラムの概要

▶ 授業第1回目

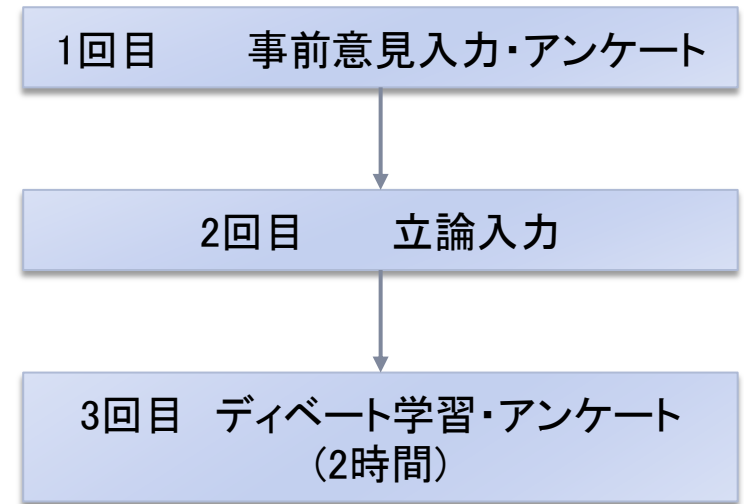
- ▶ ディベートの論題・立場を配布
- ▶ 論題に対するその時点での意見(事前意見)を入力
- ▶ 学習モチベーションを測定するアンケートにも回答

▶ 授業第2回目

- ▶ 論題についてインターネットを用いて調査
- ▶ 与えられた立場からの主張(立論)の入力

▶ 授業第3回目(連続2時間)

- ▶ ディベート本番
- ▶ 論題に対するその時点での意見(事後意見)を入力
- ▶ 学習モチベーションを測定するアンケートへの回答



ディベート学習プログラムの実践

▶ 目的

- ▶ 参加者の学習モチベーションの向上

▶ 方法

▶ 参加者

- ▶ ある高等学校の1、2、3年生各10クラス、合計1203名

▶ 時期

- ▶ 3年生は2009年度の1学期に、1、2年生は2009年度の2学期

▶ アンケートを作成し、学習プログラムの前後に実施

- ▶ 1、2年生では、文武両道へのモチベーション・意義の理解を測定
- ▶ 3年生では受験勉強へのモチベーション・意義の理解を測定

実践でのディベート学習の論題設定

学年	学習活動	論題
1、2年生	文武両道	本校では文武両道を進めるためにも部活動の時間を短くし、6時完全下校にすべきである
3年生	大学入試	大学入試では、今よりも知識や理解を問う問題を少なくし、思考力や判断力、表現力を問う問題を多くすべきである

1、2年生

- ▶ 文武両道へのモチベーションを高める論題
 - ▶ この高校は文武両道を掲げている
- ▶ 下校時間についての論題
 - ▶ 部活動や学校祭の準備等の自主活動の時間と塾や自宅学習などの時間のバランスに直接影響する
 - ▶ 文武両道についても話が展開する

3年生

- ▶ 大学入試へのモチベーションを高める論題
 - ▶ 受験を控えており本校の生徒はほとんどが大学へ進学する
- ▶ 大学入試の問題構成についての論題
 - ▶ 大学に入学した後に必要な能力に関連している
 - ▶ 大学入試が意味の無い活動ではないことを気付かせられる

アンケートの内容

- ▶ 1、2年生のアンケート(全16項目、6つの項目グループ)
 - 1. 「文武両道の**意義の理解**」「文武両道の自覚」
 - ▶ 学習プログラムの評価のため
 - 2. 「下校時間の決定理由の理解」
 - ▶ **論題についての理解**を問う
 - 3. 「文武両道の現状」
 - ▶ 文武両道へのモチベーションに影響すると思われる
 - 4. 「論題への興味」「ディベートの印象」
- ▶ 3年生のアンケート(全23項目、4つの項目グループ)
 - 1. 「受験勉強の**意義の理解**」「学問探求へのモチベーション」
 - ▶ 学習プログラムの評価のため
 - 2. 「大学の求める人物像と高校科目の意義の理解」「大学入試問題の理解」
 - ▶ **論題についての理解**の程度を問う

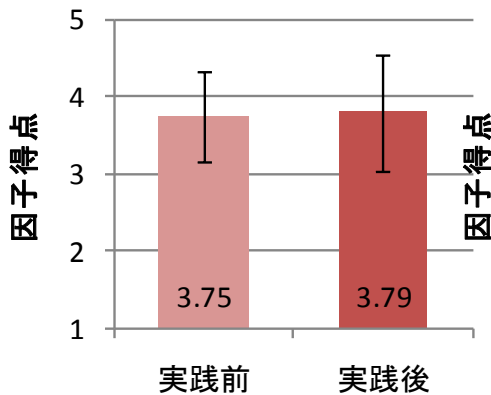
実践の結果

- ▶ アンケート有効回答
 - ▶ 全ての授業に参加した生徒
 - ▶ 1年生316名、2年生363名、3年生316名
- ▶ 結果の処理
 - ▶ アンケート各項目の5段階の回答を、「まったくそう思わない」を1、「とてもそう思う」を5と数値化
 - ▶ 因子分析の結果、項目グループが因子として抽出され、各因子の項目の因子の平均値を求めた
 - ▶ ディベート学習前後の因子平均値のt検定を実施

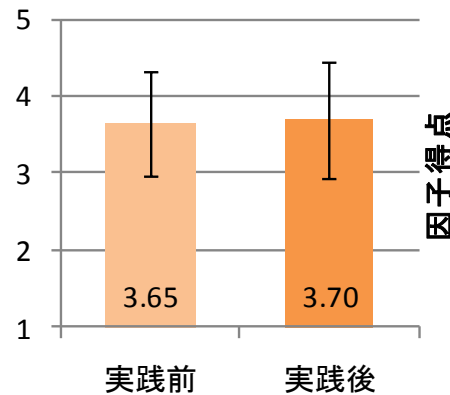
実践の結果 3年生

**: $p < 0.01$

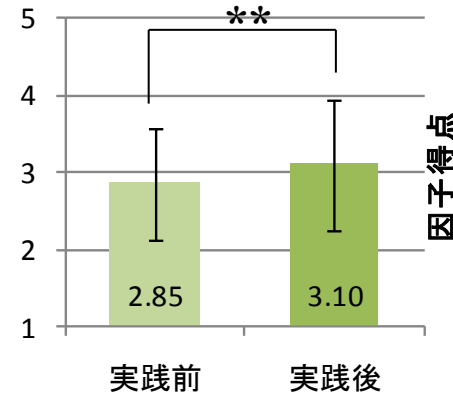
受験勉強の
意義の理解



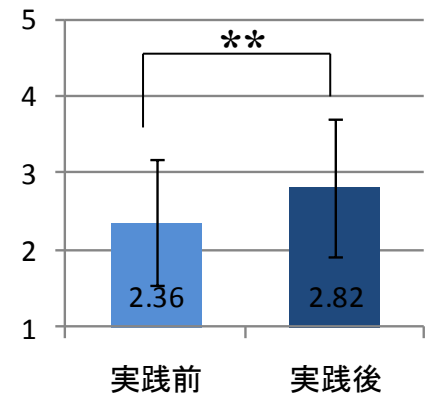
学問探求への
モチベーション



大学の求める人物像と
高校科目の意義の
理解



大学入試問題の
理解

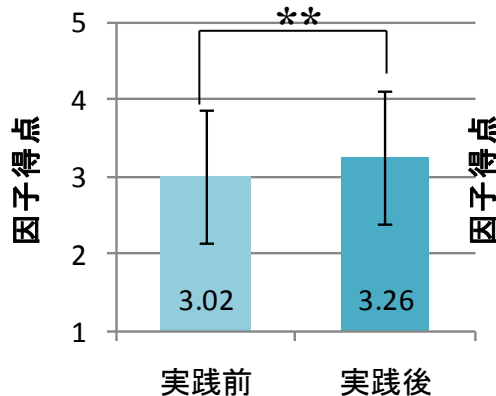


- ▶ ディベートの論題に直接関連した事柄の理解に関する項目の因子平均値は統計的に有意に向上
- ▶ 大学入試へのモチベーションを表すと考えられる2つの因子の平均値は、有意な上昇は見られず

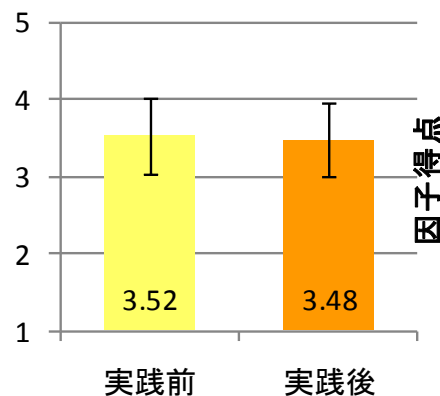
実践の結果 2年生

**: $p < 0.01$

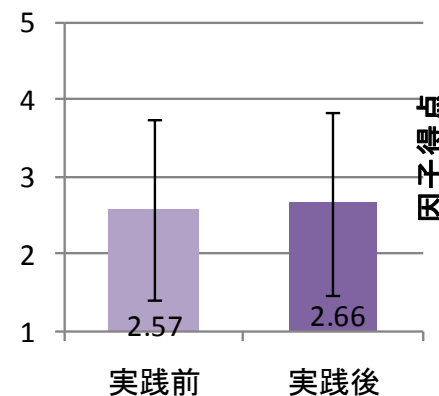
下校時間の
決定理由の理解



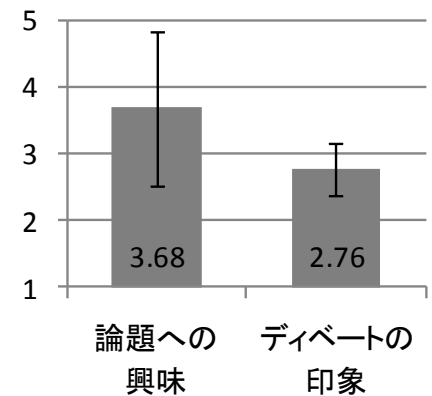
文武両道の
意義の理解



文武両道の自覚



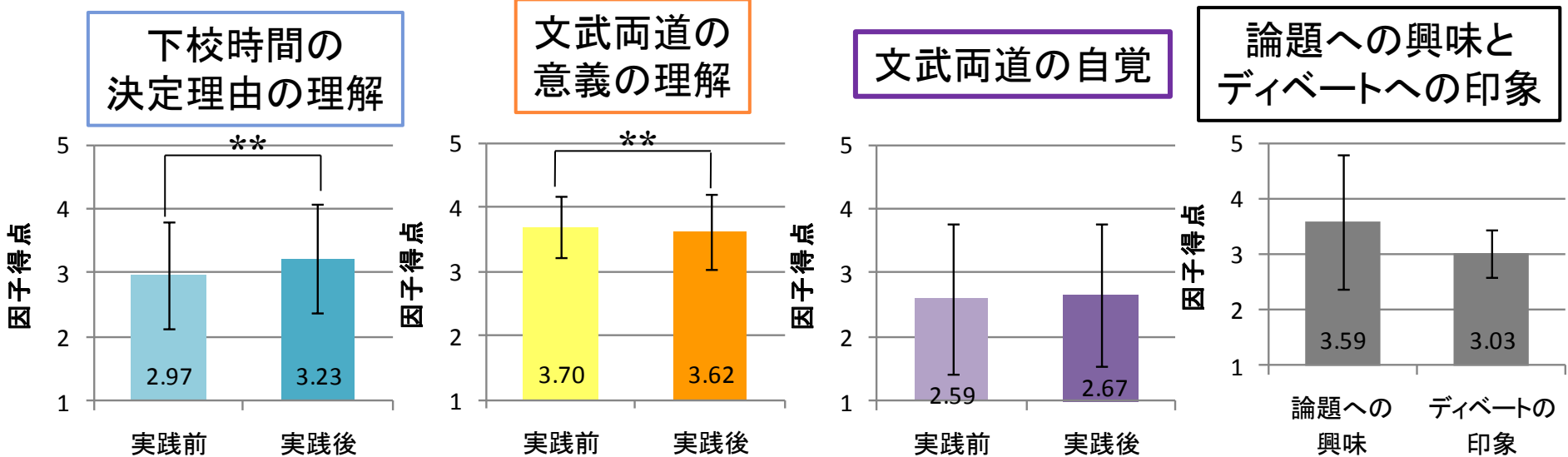
論題への興味と
ディベートへの印象



- ▶ ディベートの論題に直接関連した事柄の理解に関する因子平均値は有意に上昇
- ▶ それ以外の因子平均値は有意な上昇は見られず
- ▶ 文武両道へのモチベーションを表すと考えられる「文武両道の意義の理解」は値が小さくなる方向に変化

実践の結果 1年生

**: $p < 0.01$



- ▶ ディベートの論題に直接関連した事柄の理解に関する因子平均値は有意に上昇
- ▶ 「文武両道の意義の理解」は有意に減少

論題に対する事前意見と事後意見の集計

1年生

		事前意見				
		賛成	反対	中立	その他	全体
事後意見	賛成	26	15	0	1	42
	反対	14	205	1	1	221
	中立	2	18	1	0	21
	その他	8	23	0	1	32
	全体	50	261	2	3	316

2年生

		事前意見				
		賛成	反対	中立	その他	全体
事後意見	賛成	12	14	1	0	27
	反対	8	246	2	1	257
	中立	7	28	3	0	38
	その他	3	36	1	1	41
	全体	30	324	7	2	363

- ▶ 各学年ともディベート後は中立が増えていた
- ▶ 1、2年生は反対が多かった
 - ▶ 部活動の時間が短くなるのに拒否感

3年生

		事前意見				
		賛成	反対	中立	その他	全体
事後意見	賛成	89	41	7	0	137
	反対	31	50	8	0	89
	中立	20	26	21	0	67
	その他	8	10	3	2	23
	全体	148	127	39	2	316

結果のまとめと考察

学習活動の意義の理解について

▶ まとめ

- ▶ 学習活動の意義の理解はあまり進まなかった
- ▶ 論題に直接関連した事柄の理解は進んだ

▶ 解釈1

- ▶ 参加者が論題と関係の強い事柄については話し合うことができた
- ▶ 論題と関係の弱い事柄、つまり学習活動の意義については話し合い、考えることができなかった

学習活動の意義につながるの強い論題を設定すべき

▶ 解釈2

- ▶ 1年生、2年生の場合は、学習活動の意義について「考えること」はできたが、「理解すること」はできなかった
- ▶ 根拠
 - ▶ 1年生、2年生共に「文武両道の意義の理解」の因子平均値が低下した
 - ▶ ディベート学習前後で論題について中立やその他の意見が増えた

意義について考えるきっかけにはなった

全体のまとめと結論

- ▶ 高等学校生徒の、様々な学習活動の意義の理解を促し、学習モチベーションを向上するためのディベート学習を用いた学習プログラムを構築した
- ▶ また、構築した学習プログラムを、ある高等学校の3つの学年で実践した
- ▶ 実践の結果
 - ▶ ディベートの論題に直接関連した事柄の理解は進んだ
 - ▶ 学習活動の意義の理解、学習モチベーションは統計的に有意には向上しなかった
- ▶ しかし
 - ▶ 学習プログラム改善に役立つ示唆が得られた
 - ▶ 学習活動の意義を考えるきっかけにはなっていた可能性がある